

臼杵市 施策評価シート
(令和3年度)

評価 担当者	課名	氏名	内線
	都市デザイン課	小坂 郡師	2320

コード	VI-17-38	施策名	港湾の整備と活用
施策の方針	交通基盤を整える		
まちづくりの方針	社会基盤が整い、行動力ある市民が暮らすまち(社会基盤)		
5年後のめざす姿	臼杵港に新しい埠頭が整備され、「九州の東の玄関口」として港がにぎわうことによりフェリーの利用者が増え、人や物の流れが活発になります。 本市の情報を効果的に提供することで、市内の観光地へ来訪者を誘導します。港の緑地は安心して快適な空間として市民に親しまれ、災害の発生時において防災の拠点施設としての機能を発揮することをめざします。		
施策の内容	九州の東の玄関口として、四国や関西方面へ、海上輸送の拠点として、フェリー機能の強化を図るため、新埠頭を整備し、人の交流を生むために、ハード・ソフト両面から港の魅力づくりを行います。		

<指標>

新規 指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移					
				R1	R2	R3	R4	R5	R6
	フェリー乗降車の年間台数	港湾統計	千台	236	221	224	228	231	235
			達成率	%	79.2%	80.4%			
○	新臼杵港整備工事(1バース)の進捗率	工事の進捗率 = 累積事業費 ÷ 総事業費 × 100	%	80	84	91	96	100	100
			達成率	%	100.0%	100.0%			
			目標						
			実績						
			達成率	%					
			目標						
			実績						
			達成率	%					
			目標						
			実績						
			達成率	%					
			目標						
			実績						
			達成率	%					

指標の分析	<ul style="list-style-type: none"> フェリー乗降車の年間台数については、新型コロナウイルス感染症の影響により一時利用者が減りましたが、少しづつ回復傾向にあります。 新臼杵港の整備については、埠頭用地の地盤の詳細な調査を行った結果、想定を超える軟弱地盤層が確認されたため、専門家委員会で検討を進めた結果、開港後の地盤沈下対策に取り組む必要が生じたため、事業実施が延長されました。
-------	---

<市民意識調査結果>

	領域名	必要度	満足度
市民意識調査結果 (R3調査)	検討領域	2.43	1.90
市民意識調査結果分析	令和3年度実施のアンケート結果では、「必要度」「満足度」とともに低く、「検討領域」に位置しており、施策や事業の内容について再考の余地があります。		
	県事業として整備されている港湾施設については、四国や関西方面と九州を結ぶ基幹的な交通の拠点施設であるとともに、『耐震強化岸壁』や『防災緑地』を備えた重要な施設であり、災害発生後、県南地域の人の流れ、物流の基幹ルートとして、海上輸送の拠点となる施設であるため、その重要性を周知していく必要があります。		

<次年度以降の課題>

令和4年度以降の課題	新しい埠頭の整備については、軟弱地盤の対策工事の経過を見ながら、供用開始時期の決定がされるが、供用開始後の利活用や、周辺道路の交通渋滞等の対策を講じる必要があると考えています。 また、令和4年2月に開催された大分県地方港湾審議会では、臼杵港湾計画の変更(2バース目の計画)が承認されたことから、2バース目の整備に向けた取組が必要となります。
------------	---

<施策を構成する主な事務事業一覧表>

事務事業名	事業内容	担当課 ※実施した課を記入	課の重点 ※運営計画記載	事業費(単位:千円)			課長評価	公共5カ年	他の関連施策コード
				R2年度実績	R3年度実績	令和4年度年度見込み			
1	臼杵港 港湾改修工事 県工事負担金	都市デザイン課	○	130,538	148,505	38,000	継続	○	
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
合計				130,538	148,505	38,000			

<施策の今後の展開 ~担当課長評価>

進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> 新しい埠頭の整備については、軟弱地盤対策の経過を見極めながら早期完成を目指すとともに、既存のアクセス道路の交通渋滞等の対策工事についても、早期完成に努めていく必要がありますが、当初予定していた開港年度から遅れる予定であることから、進捗状況は遅延としています。 また、臼杵港は四国や関西方面からの物流や観光客を受け入れる、九州の東の玄関口として大変重要な施設であり、供用開始に併せて、交流人口の増大や臼杵市の活性化に繋がる各取組も検討していく必要があります。 	課長評価	目標を達するため、現状維持とする
------	---	------	------------------

<施策の今後の展開 ~内部評価(内部検討会)>

※以降の評価は、令和3年度~令和5年度の3カ年に分けて実施予定。

実施年度	指標の実績の推移に、新型コロナウイルス等の影響により、一部未達成となっています。また、臼杵港の新しい埠頭の整備については、これまで課題でありました軟弱地盤対策も順調に推移しています。 埠頭の供用開始時期に合わせた、アクセス道路等の強化や二期工事の着手もされており、現状の取り組みを継続していくこととしました。	内部評価	目標を達するため、現状維持とする
------	---	------	------------------

<臼杵市行財政活性化推進委員会による外部評価:最終>

外部評価	評価のコメント
維持	港湾の整備は、単なる港の整備にとどまらず、臼杵市が九州全体の物流の拠点となるような大切な事業。ただし、便利な通過拠点ではなく、緑地等整備することで、市民にとっても有効活用が可能な、賑わいの拠点となるようなものにしてほしい。

<臼杵市行財政活性化推進委員会を受けての市の取組>

港湾整備にあわせて道路整備も重要と考えており、港湾へのアクセス道路や東九州自動車道の4車線化、中九州横断道路の整備等について、引き続き国や県等関係機関に要望していく。
 開港時期は現時点では未定だが、開港にあわせて、交流人口の増大や活性化につながる取組についても検討していきたい。